

中学校教科等研修講座(社会科)

教科等指導員 伊丹市立松崎中学校 教諭 櫻井 真理子

担当指導主事：時村 孝完

キーワード：ICTの活用 意見交流の場 ゆさぶり 生活とのつながり

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
2月12日(火)	松崎中学校 櫻井 真理子 教諭	松崎中学校 1年3組・授業	「武士の台頭と鎌倉幕府(第1学年)」

2 主な内容

(1) 「武士の台頭と鎌倉幕府(第1学年)」

『貴族と武士による二重支配で苦しんだ農民が、どのような工夫をして産業を発展させたのかを考え、説明することができる。』を本時の目標として、授業を展開した。

① 導入

既に学習した奈良時代の農民の生活について書かれた資料を読み、その生活の苦しさを振り返ることで、鎌倉時代の農民の姿を想像させた。

② 展開

鎌倉時代の農民が訴えを起こした資料を読み、農民が貴族・武士の両方から支配されていたことを確認し、奈良時代の農民と比べてどのように変化したかを考えた。さらに、絵画資料から、鎌倉時代に農業や商業が発達したことを確認した。

③ ゆさぶり

鎌倉時代の人々が、なぜ苦しい生活の中で産業を発展させることができたのかを考え、グループで意見交換をした。

④ まとめ

各班の意見を全体場で共有した。力を付け、団結することを覚えた農民が、後の時代(室町時代)には、一揆を行い、自治を行っていくことを予告した。



3 成果と課題

(1) 成果

- ICT機器を活用し、絵画資料から鎌倉時代の農業や商業の様子を視覚的に確認することができた。
- 教師が意図的な発問をすることで、苦しい生活の中で産業を発展させることができた理由を考えることができた。また、貨幣経済の発達や、農業技術の進歩など、鎌倉時代の人々が努力して豊かになったことを学び、自らの生活を向上させるには自分たちの努力が必要だと気づくことができた。

(2) 課題

鎌倉時代と奈良時代の農民の姿を比較すること、及び鎌倉時代の産業の発展を学ぶという2つの内容を1時間で行うのは困難であった。もう少し内容を絞った授業展開を考えるよう、今後も研鑽を積む必要がある。